ライナー・ホーネック物語 VI 最終回

巨匠との想い出

取材・文　岡本和子

2017年4月、紀尾井ホール室内管弦楽団首席指揮者に就任したライナー・ホーネック。インタビューや密着取材を通してその人となりに迫ります。

「コンサートマスターは指揮者とオーケストラの間を取り持つ外交官のような仕事」

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとして40年近く活躍しているホーネック。「過去を美化するつもりはないが」と前置きしつつ、やはり一番印象に残っているのは、今は亡き巨匠たちとの共演だという。最終回にあたり、ざっくばらんに語ってもらった。

カール・ベーム（1894-1981）

「最晩年に3回ほど共演しました。一度決めたテンポを厳守する指揮者でした。遅すぎず速すぎない的確なテンポで、私が特に好きだったのは彼のモーツァルト。厳格な枠の中で音楽を自由に歌わせる名指揮者でした。元気だった頃は毒舌で怖かったようですが、私が入団したときにはすでにかなりご高齢だったのもあってか、意地悪されるようなこともありませんでした。オーケストラには時々厳しく叱ってくれる『親父』が必要だと思うのですが、最近はそういう指揮者がいなくなって残念です」

1

2

ヘルベルト・フォン・カラヤン（1908-1989）

「オーケストラ奏者の心理を巧みに操る魔法使いのような人。『彼の理想を実現するため死に物狂いで尽くさなくてはならない』という気にさせる指揮で、恐ろしい集中力でした。リハーサルでは、最初の30分だけ物凄く細かい練習をして自分のスタイルに我々をいったん束ねたら、あとは演奏を一切止めない。彼も厳格なテンポを重視する指揮者でした。一番印象に残っているのは、ヴェルディの歌劇『ファルスタッフ』。滑稽でどこか物悲しい主人公の心情を見事に紡ぎ出していました。同曲を録音したときに、ヴァイオリンだけ10分近く同じパッセージを繰り返し練習させられて閉口したのも、今では懐かしい思い出です」

レナード・バーンスタイン（1918-1990）

「1984年の全米ツアーで弾いたマーラーの交響曲第4番が鮮明に記憶に残っています。当時のウィーン・フィルの情感をたっぷりと込めた演奏スタイルが彼の感性と一致して、「幸せな音楽」を生み出していました。イスラエルでの公演中に、第二次大戦でオーストリアがナチス・ドイツに加担したのを抗議する年配のお客さんが現れて騒動になり、彼が舞台上からヘブライ語で話をして場を収めたことがありました」

カルロス・クライバー（1930-2004）

「疑心暗鬼になりやすくて神経質な指揮者でした。いつも周囲の高い期待に押し潰されそうになっていて、気の毒でした。癇癪を起こして暴言を吐くことも多々ありましたが、自分の弱さを理解していて、リハーサル中に『カルロス、落ち着け、落ち着くんだ』と小さな声で呟いているのが聞こえてきました。レパートリーが少なかったと言われていますが、指揮をしなかっただけで、実際はもっと多くの作品を勉強していました。会話を通じてその豊富な知識に驚いた記憶があります」

クラウディオ・アバド（1933-2014）

「得たい響きを言葉で説明するのが下手でリハーサルでは苦労しました（苦笑）。でもなぜか本番はうまくいく、不思議な人でした」

ロリン・マゼール（1930-2014）

「団員の間で『脳内にコンピュータが埋まっている』と噂されるほど効率的なリハーサルでした。最初に1回通して弾かせて、オーケストラの癖や問題のある個所をすべて記憶し、2回目の時にその部分だけ指揮棒で修正を加えていくのです。無駄が一切ない。部分練習を全くしないので、逆にこちらが不安になるくらいでした。彼にとって指揮はF1レースみたいなものだったのではないかと思います。『難所』を巧みに乗り越えるたびに『よし！』と満足気な笑みを浮かべていましたから（笑）」

3

4

若手から長老まで、世代もタイプも異なる指揮者を相手に日々奮闘する

1 ドゥダメルは若いが、とても弾きやすい指揮者
2 90歳の巨匠。ブロムシュテットがウィーン・フィルを指揮するようになったのは最近だが、今では団員が共演を最も切望する指揮者の一人に
3 ムーティやメータと同世代のバレンボイムとは古い付き合い
4 幼い頃から知っているバレンボイムの息子も、いつの間にか立派なヴァイオリン奏者になりました

紀尾井ホール室内管弦楽団
Kioi Hall Chamber Orchestra Tokyo
新日鉄住金文化財団

名だたる歌劇場で活躍するイタリアの名匠、紀尾井ホールに再臨。

第111回定期演奏会
4/27(金)・4/28(土)
19:00　14:00

指揮：パオロ・カリニャーニ　メゾソプラノ：リリー・ヨルシュター
ケルビーニ：歌劇「アリババ」序曲　マルトゥッチ：夜想曲（管弦楽版）
レスピーギ：組曲「鳥」　ドビュッシー：ベルガマスク組曲（クロエ＆カプレ編）
ベルリオーズ：クレオパトラの死